

## 都市計画マスタープラン改定に係る市民意見の結果について (地域別説明会)

### 1 説明会の概要

説明会の題名	小田原市都市計画マスタープランの改定に係る地域別説明会
説明会の日程 及び会場	令和4年10月13日(木) 根府川公民館 令和4年10月14日(金) 小田原市役所本庁舎 令和4年10月19日(水) 城北タウンセンターいずみ 令和4年10月21日(金) 川東タウンセンターマロニエ 令和4年10月26日(水) 梅の里センター 令和4年10月28日(金) 橘タウンセンターこゆるぎ
市民への周知 方法	広報紙、ホームページ、広報委員長会議 各会場へのポスター掲示

### 2 結果の概要

説明会における意見数(意見者数)は、次のとおりです。

意見数(意見者数)	26件(14人)
片浦地域	3件(2人)
中央地域	5件(2人)
富水・桜井地域	8件(4人)
川東南部地域	3件(2人)
川東北部地域	4件(3人)
橘地域	3件(1人)

### 3 意見の内容

説明会での意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	2件
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	14件
C	今後の検討のために参考とするもの	2件
D	その他(質問など)	8件

説明会での意見の内容とそれに対する市の考え方について（区分A～C）

地域	No	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方
片浦地域	1	広域農道に沿った農業振興策を検討して欲しい、例えば、農業を観光資源として活用し、地域活性化を検討できないのか	B	「地域別構想、片浦地域、まちづくりの方針（P3-2）」では、「農林水産業については、農林水産品のブランド化や高付加価値化への支援などにより、その経営体制の強化を図るとともに、その振興を図りながら観光的な結びつきによる地域の活性化を目指します。」と位置付けています。
中央地域	2	人口減少・少子高齢化に対応するコンパクトなまちづくりを進めるべき、そのためには拠点の魅力をさらに高める必要があると考える	B	「将来都市構造（P2-7）」では、「人口減少・少子高齢化が進む社会状況を踏まえ、高齢者や子育て世代をはじめ市民にとって、快適な生活環境を確保し、持続的な都市経営を推進するためには、 <u>鉄道駅周辺など交通の利便性の高い地域におけるまちの魅力を高め</u> 、都市機能の集約による居住の誘導を図るとともに、地域間を結ぶ交通軸を維持・確保する必要があることから、「小田原らしさを生かしたにぎわいのある多極ネットワーク型コンパクトシティの形成」を目指します。」と位置付けています。
	3	人口20万を維持するために具体的な施策を展開すべき	B	都市計画マスタープランは、総合計画に即す必要があるため、総合計画と同様に「人口20万人規模の都市」を目指すこととします。 その方向性としては、本市の都市基盤の資産を生かして、機能的かつ合理的な都市構造を形成し、既成市街地を生活利便性と魅力ある市街地へ効率的かつ効果的な更新整備を進めることで、人口の社会増・自然増にも応え得る都市基盤を確保することとしております。（P2-6（3）人口規模）

	4	空き家対策を進めて欲しい	B	「市街地整備・住環境の方針、空き地・空き家等の低未利用地への対応（P2-26）」では、「空家等については、「小田原市空家等対策計画」に基づき、より実効性のある空家等対策を総合的に進めます。特に、住宅ストックの活用の促進においては、利活用可能な住宅ストックの市場流通を促進するため、空き家バンクの運用や不動産情報の周知などに努めます。」と位置付けています。
	5	上位計画である都市計画区域マスタープランと整合を図るべき	B	都市計画運用指針では、「市町村マスタープランは、当該市町村を含む都市計画区域マスタープランに即したものとすることが望ましい。」とされていることから、都市計画区域マスタープランに即して、改定作業を進めております。
	6	20年後の都市の姿を展望した方針ということであれば、計画期間を迎えるまでは、まちづくりに関する大きな方針を変えるべきではない	B	まちづくりに関する基本的な方針については、短期間で変わるものではないと考えますが、計画期間内の見直しに当たっては、社会情勢の変化や上位計画である総合計画の策定などに併せ、見直すこととしております。（P序-3（3）計画期間）
富水 桜井 地域	7	栢山第一踏切における人流混雑の緩和を図って欲しい	A	ご意見を踏まえ、ボトルネックになっている踏切の改善に向けた取組について、記載してまいります。
	8	住民の憩いの場として駅前広場を新設して欲しい	B	「地域別構想、富水・桜井地域、商業地（P3-14）」では、「富水駅周辺及び栢山駅周辺を地区中心商業地と位置付け、地域住民が日常生活の利便性を享受できるよう、生活サービス施設を誘導するなど近隣商業地の形成を図るとともに、小売店舗の振興に努めます。」と位置付けています。

9	曾比地区の住民からは市街化が進んでいる開成町と一緒にになりたいという意見もある	C	開成町と一緒にになりたいというご意見については、町への編入等に係る難度の高い政策的な話であるため、参考とさせていただきます。
10	酒匂川・狩川・仙了川の合流部における水災害を危惧している	B	「都市防災の方針、水災害に対する方針（P2-37）」では、「酒匂川、山王川、森戸川、早川水系については、気候変動による水災害に備えるため、河川流域全体で水災害を軽減させる流域治水の考え方にに基づき、「流域治水プロジェクト」において、河川施設の整備や水源涵養機能を有する森林整備、貯留・浸透機能を有する農地の保全等に努め、総合的な治水対策に取り組めます。」との方針を盛り込んだところです。これを受け、「地域別構想、富水・桜井地域、商業地（P3-15）」では、「酒匂川水系における計画的な「流域治水」に係る取組を進めます。」と位置付けています。
11	栢山、曾比地区における山北開成小田原線や酒匂右岸幹線などの道路整備について、計画の具体化を目指して欲しい	B	「地域別構想、富水・桜井地域、商業地（P3-15）」では、「小田原市と山北町を結ぶ（仮称）酒匂右岸幹線、及び（仮称）山北開成小田原線については、受け皿となる穴部国府津線の整備状況や延伸部の整備方針を見据えつつ、地元住民の合意形成を図りながら、計画を検討します。」と位置付けています。
12	併せて、東西方向についても道路計画を検討して欲しい	C	富水・桜井地区には、南北方向の路線として、（仮称）酒匂右岸幹線、及び（仮称）山北開成小田原線が位置付いております。これら2路線については、県西広域都市圏域における将来の自動車交通ネットワークとして、自動車交通基盤が必要であるとの見地から、優先して計画を検討してまいります。

川東南部地域	13	鴨宮駅北口の開発に当たっては都市基盤整備が重要になるのではないか	B	「地域別構想、川東南部地域、商業地（P3-18）」では、「鴨宮駅周辺における都市基盤が整っていない区域については、建築物の共同化や道路拡幅等を促進し、防災性、居住環境の向上を図ります。」と位置付けております。
	14	激甚化・頻発化する自然災害に備えることが重要であり、復興事前準備に関する取組を進めてもらいたい	A	「都市防災の方針、復旧・復興に関わる事前準備（P2-37）」では、「日常から災害が発生した際のことを想定し、どのような被害が発生しても対応できるよう、復興に資するソフト的対策を事前に準備する「復興事前準備」に関する取組について検討します。」としていたところですが、自然災害は、激甚化・頻発化していることから、早期の対応が必要と考えますので、「着手します」に修正します。
川東北部地域	15	曽我地区における人口増加施策を検討して欲しい	B	「地域別構想、川東北部地域、農地等（P3-22）」では、「人口減少が認められる既存の集落においては、地区計画の活用により、土地利用を支える地域コミュニティの維持と活力の回復に必要な範囲において、既存集落内に必要な生活サービス施設等や住宅の立地を受け入れるなど、地域の課題の解決に向けた取組を進めます。」と位置付けています。

	16	運転免許を返納した高齢者の交通手段を確保して欲しい	B	「都市交通の方針、公共交通の整備方針（P2-19）」では、「バス路線の廃止・減便が懸念される地域などにおいては、令和5（2023）年度に策定予定の「小田原市地域公共交通計画」に基づき、地域住民との連携による新たな移動手段の導入などについて検討します。」との方針を盛り込んだところです。
橘 地域	17	下中たまねぎなどの地域の生業とまちづくりを結び付けて進めるべき	B	「地域別構想、橘地域、まちづくりの方針（P3-25）」では、「農地については、生産環境の保全を図るとともに、市民農園など都市住民との交流を通じて、地域の活性化を図ります。」と位置付けています。
	18	耕作放棄地の増加、獣害もあるので、その辺を加味した形で住環境を守ってほしい	B	「地域別構想、橘地域、まちづくりの方針（P3-25）」では、「住宅地については、田園風景と調和した良好な市街地の形成を図ります。 <u>農地については、生産環境の保全を図るとともに、市民農園など都市住民との交流を通じて、地域の活性化を図ります。</u> 」と位置付けています。

その他（区分D）（他所管の施策に係る意見として整理した事項）

- 19 農業従事者の高齢化、後継者不足が主な原因であるが、耕作放棄地が増加している（片浦地域）
- 20 米神、石橋の漁港についても防災対策を検討すべき（片浦地域）
- 21 ゼロカーボンの視点に立って、耕作放棄地などに太陽光発電設備を検討してはどうか（富水・桜井地域）
- 22 耕作放棄地の解消に係る施策を検討して欲しい（富水・桜井地域）
- 23 東京までの交通の利便性を生かして、新幹線利用に係る補助などを検討しなければ人口20万人は難しいと思う（川東南部地域）
- 24 JR 御殿場線の小田原への直行便を復活するよう鉄道事業者に要望してもらいたい（川東北部地域）
- 25 エネルギーの地産地消を図るマイクログリッドなど、実現可能な施策を展開してもらいたい（川東北部地域）
- 26 橘団地など極端な高齢化が進んでいる地域においては、農業従事者の後継者不足や耕作放棄地の増加、獣害などの問題が生じているので、具体的な対策を検討してほしい（橘地域）

※都市計画マスタープランに係る意見についても他所管の施策に関係するため、全ての意見を関係所管課と共有しています。